

題材名 曲想に合う演奏の仕方を工夫して、ギターの弾き語りを楽しもう	内容のまとめ 「A表現」(2)器楽 及び [共通事項](1) (3)創作 及び [共通事項](1)
---	--

1 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造やギターの奏法との関わりについて理解するとともに、自己のイメージをもって創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能やギターのストローク奏法、身体の使い方を身に付ける。【知識及び技能】
- (2) 構成やリズムを知覚し、その働きを感受したり、ギターの表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫する。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) ギターの音色や奏法、構成やリズムと曲想との関わりに関心をもち、主体的・協働的に器楽や創作の学習に取り組むとともに、音楽に対する感性を高め、音楽を愛好する心情を養う。【学びに向かう力、人間性等】

2 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽 I

A表現 (2)器楽

- ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
 - (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり
- ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技術を身に付けること。
 - (ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能

A表現 (3)創作

- ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。
- イ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
- ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
 - (ア) 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能

[共通事項] (1)

- (本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「構成」「リズム」)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知① 音素材及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。(創作)</p> <p>知② 曲想とギターのアンプの奏法との関わりについて理解している。(器楽)</p> <p>技① 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、創作で表現している。(創作)</p> <p>技② 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法を身に付け、ギターのアンプで表している。(器楽)</p>	<p>思① 構成、リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。(創作)</p> <p>思② 構成、リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。(器楽)</p>	<p>態 ギターのアンプの音色や奏法、構成やリズムと曲想との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に器楽や創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4 指導と評価の計画 (全6時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1	<p>◆曲想の変化と音楽を形づくっている要素との関わりを捉える。</p> <p>○ギターの歴史やギターが使われている音楽について知る。 ・ギターの楽器の起源について知る。 ・ギターが使用されているジャズやロックなどの曲を聴き、ギターの音色を確認する。</p> <p>○曲想の変化と音楽を形づくっている要素との関わりについて捉える。 ・曲想の変化を感じながら「日曜日よりの使者」を聴く。 ・楽譜を見ながら「日曜日よりの使者」を聴き、旋律やリズム、コード進行などの反復や変化を捉える。</p>			
2	<p>◆「日曜日よりの使者」の伴奏をギターで演奏しながら、曲想の変化や構成を捉える。</p> <p>○ギターの構造や基本的な演奏の仕方を知る。 ・各部の名称、姿勢と構え方、チューニングの仕方を知る。 ・フィンガーボードの図を参考にギターの音色を確認する。</p> <p>○「日曜日よりの使者」に使われている3つのコード(G、C、D)について、仕組みや響きを知る。 ・ダイアグラムを知り、奏法を確認する。 ・ギターで3つのコードの響きを確認し、旋律と関わりを確認しながら演奏する。</p> <p>○5つのフレーズがあることを知り、それぞれのフレーズの役割や曲想の違いを捉える。</p>			↓

	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律やコード進行の反復や変化から曲の構成を捉える。 ・それぞれのフレーズの役割や曲想について気付いたことをワークシート①に記入する。 ・聴き取ったり感じ取ったりしたことを仲間と交流し、考えを広げたり深めたりする。 	評価の場面Ⅰ 知① 〈観察〉 〈ワークシート〉		
3	<p>◆様々なストローク奏法を知り、そのリズムによる曲想の違いを感じ取りながらギターで演奏する。</p> <p>○ストローク奏法を知り、ギターで演奏しながら確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダウン・ストローク、アップ・ストローク、オルタネイト・ストロークについて知る。 ・教師の範奏や動画を参考にして、それぞれの奏法についてポイントをつかむ。 <p>○様々なストローク奏法を比較し、それぞれの演奏効果について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・譜例1～4について、それぞれの曲想を比較する。 	評価の場面Ⅱ 知② 〈観察〉 〈ワークシート〉		
4	<p>◆「日曜日よりの使者」の伴奏を様々なストローク奏法で演奏しながら、リズムによる曲想の違いを捉える。</p> <p>○譜例1～4をギターの音色に気を付けて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に見つけた各ストローク奏法のコツについて交流する。 ・奏法やよりよい音色について、仲間と演奏を聴き合いながら練習する。 <p>○譜例1～4で伴奏した時の曲想の違いを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日曜日よりの使者」の伴奏を譜例1～4で伴奏し、それらを比較しながら聴いたり合わせて歌ったりしながら、それぞれの曲想の違いを捉える。 ・感じ取ったことを交流し、考えを広げたり深めたりする。 			
5	<p>◆構成を生かして、ギターのストローク奏法(リズム)を工夫する。</p> <p>○これまでの学習をもとに、各フレーズの役割や曲想に合わせて、どのようにストローク奏法を工夫するか見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示する2種類の範奏を聴き比べる。 ・ワークシート①を参考にして、構成を生かしたストローク奏法(リズム)を考える。 <p>○各フレーズに合うストローク奏法(リズム)について、根拠を明らかにしながら考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギターで音を確認めながら、譜例1～4を選んだ理由をワークシート②に記入する。 ・仲間と交流し、考えを広げ深める。 ・仲間との交流を生かして、再びストローク奏法を考える。 ・自分や仲間が考えたストローク奏法のよさを確かめる。 	評価の場面Ⅳ 技① 〈観察〉 〈作品〉	評価の場面Ⅲ 思① 〈観察〉 〈ワークシート〉	
6	<p>◆曲に合ったストローク奏法でギターの弾き語りを楽しむ。</p> <p>○曲に合わせたストローク奏法でギターの弾き語りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに考えたことを演奏で表現できるようにする。 ・仲間と演奏を聴き合い、それぞれの工夫のよさを知る。 	評価の場面Ⅴ 技② 〈演奏〉	評価の場面Ⅶ 思② 〈ワークシート〉	評価の場面Ⅵ 態 〈観察〉 〈ワークシート〉

5 指導と評価の実際

評価の場面Ⅲにおける実践例

(1) 本時の目標

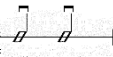
曲の構成やストローク奏法のリズムを知覚し、その働きを感受しながら、各フレーズの役割や自分が表したい曲想に合う伴奏を工夫することができる。

(2) 評価規準

構成、リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。【思考・判断・表現】観察・ワークシート

(3) 本時の教材 「日曜日よりの使者」 甲本ヒロト 作詞/作曲

(4) 学習の展開例

	学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点及び観点別評価
導 入	<p>○「日曜日よりの使者」を、 (譜例1)のストローク奏法を使って演奏(ギターのエッセンス)をする。</p> <p>○教師が演奏する2種類の演奏を聴き比べ、構成を生かしてストローク奏法(リズム)を変化させることのよさに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレーズが変わる所でストロークが変化していた。 ・構成を生かしてストローク奏法を変えると、曲の感じが変わって面白い。 ・自分だったら、旋律が変化するところでは、気持ちが盛り上がるように、細かいリズムがあるストローク奏法を使ってみよう。 	<p>○フレーズのまとまりを感じながら演奏をしているか。</p> <p>○曲想や音楽の構造を視点にして、2つの範奏を比較して聴いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「同じストロークの演奏」と「フレーズごとにストローク(リズム)を変化させた演奏」の2種類を提示する。 ・「構成」と「リズム」がかみ合った時に曲想が変化するよさを感じ取らせる。 ・本時の活動内容について見通しがもてるようにする。
	各フレーズの役割や表したい曲想に合うように、ストローク奏法(リズム)を工夫しよう。	
展 開	<p>○フレーズの役割や曲想に合うリズムを譜例1～4を参考にして工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を参考に、自分が表したい曲想に対して自分なりにどのようにストローク奏法(リズム)を工夫するか見通しをもつ。 ・各フレーズに合うストローク奏法をギターの演奏で確かめながら考える。 ・選んだ理由を学習プリントに記入する。 <p>○仲間と交流し、考えを広げたり深めたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ理由を述べながら自分の作品を演奏する。 ・活動時に「悩んでいること」「こだわった所」などを交流し合う。 <p>○交流したことを生かして再び創意工夫する。</p>	<p>○教科書やタブレット等を使って、これまでの学習を生かそうとしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各フレーズの特徴が生きるようなリズムを考えるように促す。 ・「自分が演奏しやすいリズムだから」「なんとなく」という視点の生徒に対しては、曲の「構成」を生かした「リズム」を選ぶように促す。 <p>○より自分のイメージに合うものになるよう、粘り強く取り組んでいるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援ツールを使って発表者の画面を共有し、交流を円滑にする。 ・実際にギターの演奏で示し、音楽を共有しながら交流を行うように促す。
ま と め	<p>○構成を生かしたストローク奏法(リズム)が工夫できたか、本時の活動を振り返る。</p>	<p>○評価規準【思考・判断・表現】</p> <p>構成、リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p>